

臨床オピオイド離脱症状尺度(Clinical Opiate Withdrawal Scale/COWS)

※各項目について、患者の症状やサインに、最も適合する選択肢を選ぶ。選択肢の冒頭番号がその項目のスコアとなる。
 ※明らかにオピオイドの離脱と関係がある症状やサインだけを評価すること。たとえば、診察の直前までジョギングをしていて脈拍が増大している場合など、スコアに数えない。

患者氏名： _____		日時： _____ 年 _____ 月 _____ 日 / _____ : _____	
評価の理由： _____			
安静時脈拍 _____ /分 (1分間座るか横になるかした後に測定する) 0：脈拍 80 以下 1：脈拍 81-100 2：脈拍 101-120 4：脈拍 121 以上	消化器症状 (診察前の 30 分間について) 0：消化管症状なし 1：腹痛 2：吐き気あるいは軟便 3：嘔吐あるいは下痢 4：嘔吐、下痢を繰り返す		
発汗 (診察前の 30 分間について / 運動や暑さによるものは評価しない) 0：寒気も火照りない 1：患者が寒気ないし火照りを感じる 2：顔が火照るか、うっすらと汗をかく 3：額や顔に、玉の汗をかく 4：顔の汗が流れる	振戦 (腕を伸展させて観察) 0：振戦なし 1：振戦を感じるが外からはわからない 2：かすかな振戦がわかる 4：粗大な振戦あるいは筋肉のぴくつき		
静座不能 (診察中に観察) 0：じっと座っていることができる 1：じっと座っていることが苦しい 3：たびたび、わけもなく手足を動かす 5：数秒でもじっとしておれない	あくび (診察中に観察) 0：あくびをしない 1：診察中 1 - 2 回のあくび 2：診察中 3 回以上のあくび 4：1 分間に数回以上のあくび		
瞳孔の大きさ 0：室内光での正常の大きさ、または小さい 1：室内光での正常の大きさより、少し大きい 2：中くらいに散大している 5：虹彩の縁を残す程度にまで散大している	不安といらいら 0：なし 1：いらいらや不安の増加を訴える 2：患者の不安やいらいらが観察できる 3：診察が困難になるほどの不安やいらいら		
骨と関節の痛み (従前より痛みがある場合、オピオイドの 離脱によって増強した痛みのみ評価する) 0：なし 1：軽く広範な不快感 2：関節や筋肉の、強く広範な痛みを訴える 4：関節や筋肉をさする、 あるいは痛みのためにじっとできない	鳥肌 0：皮膚が平滑 3：腕に鳥肌が立つか、毛が立っている 5：顕著に鳥肌が立っている		
鼻水と涙 (風邪やアレルギーによるものは除く) 0：なし 1：鼻をすする、あるいは目が潤む 2：鼻水がたれる、あるいは涙が出る 4：鼻水が続き、涙が頬に流れる	総計スコア _____ (11 項目のスコアの総計) 実施者氏名： _____		

スコア 5~12 は軽度、13~24 は中程度、25~36 はやや重度、37 以上は 重度の離脱症状を示す
 ※この評価表は、臨床目的での複写と使用は自由である。

これは Donald R. Wesson, Walter Ling 著, "The Clinical Opiate Withdrawal Scale (COWS)", Journal of Psychoactive drugs Volume 35 Number 2, p253, 2003 の表を翻訳したものです。